



# 月刊 部員新聞

2008年1月 第27号

編集・発行 Unit

## スポーツと地球環境

今月の初旬から14日間にはわたって、学生スキー連盟の役員として大会運営に携わってききました。

学生個人のタイトル戦と、各競技種目でも行われている学校対抗戦のインターカレッジです。それぞれ日本を代表するスキー場の志賀高原と妙高高原で行われました。

標高1,300mを超える志賀高原で春のような陽気であったり、豪雪地帯といわれ昔は5月以上積雪があった妙高高原も、その1/2〜1/3ほどしか積雪がなく、1月にもかかわらず雪ではなく雨が降ったりしてくる有様でした。

生活をしている方にとっては雪かきなどの作業から少し解放され、過ごしやすくなっているかもしれません。が、スキー場にとっては死活問題になってしまっています。

これもやはり温暖化の影響ではないかと思われる。ヨーロッパの氷河も20年前と比較して何百メートルも後退している事は珍しくありません。

### スキーがなくなる

最近では普段から地球環境、特に温暖化について各方面で叫ばれています。

このまま温暖化が進むことよって日本ではできなくなるかもしれないスポーツがスキーではないでしょうか。

他の競技種目と異なり雪上という自然環境で行う以上、雪が降らないことにはどうしようもないのです。近年は人工降雪機というものも発達してきていますが、夜間の気温がある程度まで低くならないと稼働できないそうです。

同じウィンタースポーツのスケート競技は屋内でも可能ですが、スキー競技はほぼ不可能でしょう。

### 何が出来るのか

さてそのような状況の中、普段の生活の中でではなく、スポーツを取り巻く中で地球環境に対してできることはあるのでしょうか。

月並みではありますが資源の節約、特に紙類の節約があげられるのではないのでしょうか。

これは競技者にとっても、競技者を取り巻く競技団体の方でしょう。競技団体ごとに大会結果をまとめたものや、外部に活動報告をするためのものなど様々な形の冊子があります。その他にも役員に配布する運営資料など、

紙類を非常に多く使っています。

またトレーニングではあまり使わなくても、大会になると審判や結果発表などで大量の紙が使われます。無駄に印刷をせず必要最小限にとどめてみてはいかがでしょう。

またある競技団体の役員の自宅には年間コピー用紙の段ボール箱(5,500枚入)にいっぱいになるほど書類が送られてくるそうです。

もちろんどれも連絡事項など必要なものなのですが、これだけインターネットが発達した社会で、電子メールでPDF配信してもいいのではないのでしょうか。保存書類として必要であれば事務局で1部

保存しておけばすむのではないのでしょうか。

このようにすれば書類にかかる紙だけではなく、封筒なども削減が可能になり、郵送費や印刷費などの事務経費削減にもなります。

このような話になるとコンピュータを使えないお年寄りはどうするということになります。その人にはファックスなり郵送なりしてもいいのではないのでしょうか。

逆にメールもできないお年寄りは老害になる前に運営から一歩引いて競技団体の若返りを計った方がいいのではないのでしょうか。

他にもマラソンなどの沿道で振られている使い捨ての小旗なども、宣伝効果を考えることは分かりますが、あえて作らずに「資源の

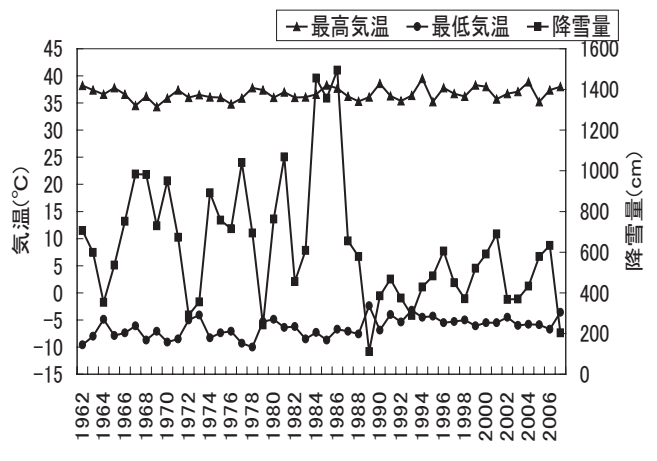
節約を考え制作費を環境団体に寄付しました。」などと繰り返して解説をした方がよっぽど企業イメージはあがるのではないのでしょうか。

### 地球のために

他にも各競技団体固有の行動があるかもしれませんが、個人レベルが行える地球環境・温暖化についての行動は、すでに皆さん行われていると思いますが、それだけではなく各競技団体全体で考えていく必要があるのではないのでしょうか。

寒くならない冬、暑すぎる夏。そのような環境にならずに、気持ちよくスポーツを続けることができるように皆さんで行動してみませんか。

気温と積雪量の変化(新潟県上越市高田)



Unit代表 澤野 博(さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部員となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のトレーニングコーチ。

ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。  
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com